

この学校にわたしたち

2023. 2. 6

N060

子どものため… よかれと思って…



犯罪心理学者の出口 保行さんは職務上、犯罪を犯した少年の保護者との面談の中で、「一生懸命子育てをしてきたのにどうして？」と戸惑っている方も少なくないと感じているそうです。出口さんは、親が思っている子どもの気持ち（客観的事実）と子どもの実際の気持ち（主観的事実）との間にギャップがあると言い、子どもがどう受け止めているのかを意識することが大切だと言います。（学校では“親”を“教師”と置き換えて考えます）出口さんは、私たち大人がついつい使ってしまうやすい言葉として次の6つを挙げて見えます。

①みんなと仲良く ②早くしなさい ③頑張って ④何度言ったら分かるの ⑤勉強しなさい ⑥気をつけて の6つで

す。今回は④⑤について簡単に書くことにします。“何度言ったら分かるの”は親が期待する姿に達していないときのあせりと怒りの表現です。その根底の怒りはそのまま子どもに伝わり、“あなたはダメな子ね”と受け取ってしまいます。“勉強しなさい”は繰り返されると余計にやる気をなくしてしまいます。これを心理学でブーメラン効果と呼びます。親が一生懸命になればなるほどよくこれらの言葉を多く使ってしまいます。（私自身、我が子に⑤⑥を多く使ってしまっていました。）子どものことを思っているからこそ出てしまいやすい言葉なので何とも難しいところではあるのですが、普段、時間がある時に「自分はどうか」「子どものために…を押し付けていないか」を振り返る習慣が必要であると思います。

保護者アンケートにご協力有難うございました

小学校時代は心・学力・体力のいずれにとっても将来の礎となっていく大切な時期です。学校は保護者・地域の皆様のご理解やご協力をいただきながら、子どもが安心して学習・生活できるよう、日々、職員は一生懸命取り組んでいます。しかしながら、私たち学校には見えないことや学校としての弱いところもたくさんあります。児童アンケート・保護者アンケートを実施し、ご意見をお聞かせいただくことで、自分たちを振り返り、より学校が保護者・地域の皆さんから信頼される学校として成長・進化していかなければならないと思います。集計・分析が済み次第、保護者の皆様にお示しをできると思います。お忙しい中、ご協力を賜り、有難うございました。